研究課題名	肺・縦隔・気道疾患手術症例における周術期および長期成績に影響を及ぼす因子の検討
研究の意義・目的	胸部一般外科手術は国内で年間 2000 件ずつ増加傾向にあり、また、近年の保険適応拡大により、従来開胸で行われていた手術が徐々に胸腔鏡下およびロボット支援下手術に移行し始めています。しかし、これら新規の技術はまだ発展途上であり、その安全性やアプローチ、器具は継続的に検討を要する状況です。 また、特に肺癌治療においては手術以外各種分子標的薬や体幹部定位放射線治療、重粒子線などが導入され、腫瘍の制御率には改善が見られています。特に分子標的薬に関しては一部に長期の腫瘍制御が得られる症例も存在し、それに伴って少数転移の症例、サルベージ治療、異時発生肺癌等に対する治療方針も課題となってきています。 このように、肺・縦隔・気道疾患に対する手術をめぐる環境は大きく変わっており、本研究でその短期および長期成績を解明していく予定です。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～　2030 年 12 月 31 日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2000 年 1 月 1 日　～　2029 年 12 月 31 日に大阪市立大学医学部附属病院呼吸器外科、および大阪公立大学医学部附属病院呼吸器外科で肺・縦隔・気道疾患手術を受けられた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：なし 情報：診療記録、血液検査データ、生理学検査データ（呼吸機能、心電図、超音波）、診断画像（レントゲン、CT、MRI、核医学検査）、気管支鏡検査、病理所見、癌再発日、最終生存確認日 情報の整理・解析に、外部へのデータ送信を行わないローカル LLM（大規模言語モデル）を使用する場合があります。また、解析コードの作成・点検及び個人識別できない集計結果の解釈補助にクラウド LLM を使用する場合があります。いずれも最終的な解析及び判断は研究者が行います。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院呼吸器外科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院呼吸器外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 外科学講座　呼吸器外科学　研究責任者　宗　淳一
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 外科学講座　呼吸器外科学 教授　宗　淳一 電話番号：06-6645-3841 FAX：06-6646-6057 メールアドレス：gr-med-lunge@omu.ac.jp